協働のまちづくり推進委員会会議録

会議名称	平成２５年度第１回山口市協働のまちづくり推進委員会
開催日時	平成２５年８月５日（月曜日）１４時～１６時
開催場所	山口市役所　3F　第２委員会室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	辻正二委員、坂本俊彦委員、林隆一委員、重村太次委員、曽田元子委員、藤永和聖委員、斉藤和彦委員、板垣幸男委員、吉冨滋浩委員、佐光邦靖委員、宮成眞澄委員、堅田雅子委員、白木美和委員、馬越帝介委員、林宏信委員、野村隆志委員、蕨周次委員、南波敏子委員（１８人）
欠席者	中野智昭委員、井出崎小百合委員（２人）
事務局	東地域振興部長、児玉地域振興部次長、宮崎協働推進課長、岡崎協働推進課主幹、村田副主幹、入口主査、天野主事（７人）
議題等	１　会長、副会長選出 ２　平成２４年度地域づくり交付金制度の評価について ３　その他 ・山口市協働事業等選考委員会委員選出について ・山口市協働によるまちづくり講演会について
内容	※要点筆記 【地域振興部長あいさつ】 【委員紹介　事務局紹介】 ＜事務局＞ 各委員を紹介。事務局（地域振興部、協働推進課職員）紹介。 【会長　副会長選出】 ＜事務局＞ 会長、副会長については「山口市協働のまちづくり推進委員会規則」第２条により委員互選により選出することになっていることを説明。立候補または推薦を委員に求める。 ＜委員＞ 事務局の方で案があれば出していただきたい。 ＜事務局＞ 会長、副会長について次のとおり提案。 会長　　辻　正二委員 副会長　坂本　俊彦委員　中野　智昭委員

	各委員異議なしのため、上記のとおり決定。 正副会長にあいさつを依頼。 ＜辻会長＞ 協働のまちづくりに最初からずっと関わっておりますので、まだやってほしいと依頼されているものと受け止めています。 今回の豪雨災害、山口市をずっと見てきましたが、これほど大きな災害は無かったと思われます。 協働によるまちづくりは、やはり地域の住民が自治的な形で相互に連携しながら取り組んでいくことだろうと思います。この度の災害は全国的にも災害地ということで全国ニュースに放送されていますが、ぜひともこの委員会でもサポートできる形でいけたら良いと思っています。 これから２年間、皆さんに御協力いただきながら司会進行していきたいと思います。よろしくお願いします。 ＜坂本副会長＞ 副会長を拝命いたしまして、皆様の協議が闊達に進むように進行のサポートに努めたいと思います。 私もこの協働によるまちづくりは条例づくりから関わっておりますが、皆様御存知のようにこの協働によるまちづくりというのは、本市だけの取り組みではなく、本県の中でも少なくとも７つくらいの自治体で関連する条例が制定されて取り組みをされているという状況があります。 地域のまちづくりにおいては、自分たちの問題を自分たちで話し合って決めようという住民自治の発展が一番の目的だろうと思っていますので、画一的にやってしまうと形式的におちいってしまうので地域それぞれの個性を大事にしていくことが大切だと思います。そのためには多くの方が関心を持ち、細かく情報を収集したり、話し合いをしたりと、時間、コスト、エネルギーがかかるものだという感想を持っています。 ぜひとも私たち一人ひとりがお持ちの地域の事情というものを出していただいて、少しでも協働によるまちづくりの内容を深めていく、そういった会議になっていただけると良いと考えています。 ＜事務局＞ 本日の資料の確認 議事の進行を会長に依頼 ＜辻会長＞ 会議内容につきましては議事録を作成し、委員の名前は非公開としてホームページ上

	に公開させていただくことを提案→了承。 　本日の会議録署名は、坂本委員、白木委員にお願いしたいと提案→了承 【議題】 ＜辻会長＞ 　それでは議題に移ります。本日の議題は、平成２４年度地域づくり交付金の評価についてです。この交付金の評価については、皆さんたいへんご苦労されたかと思います。様々な角度からいろんな意見があると思いますが、会議を円滑に進めるため、昨年度の交付金の状況やその背景など、必要な情報を共有化した上で、進めて参りたいと思います。 　それでは、その点について事務局から説明をお願いします。 ＜事務局＞ 　本日は、委員の皆様の改選ということもございまして、新しい委員の方も多くいらっしゃいますことから、私の方から、少しばかり本市が進めている協働によるまちづくりの背景や経緯、具体的な施策等について、若干、噛み砕きながら御説明申し上げます。 　我が国を取り巻く環境といいますと、少子・高齢化の進展や人口減少社会の到来により社会構造は大きく変化し、多くの社会的課題に直面していることに加えて、厳しい財政状況にある中で、国民一人ひとりの生活様式や価値観は多様化し、ニーズも多様化・高度化している成熟化社会を迎えているところでございます。 　本市におきましてもこうした状況は例外ではないものと感じておりますが、さらに本市では、２回の合併を経験し、山間部地域や臨海部地域、農山村地域や市街地地域等、広域化した市域に様々な特性を持つ地域が存在するようになり、地域ごとに異なったニーズや課題があることも事実でございます。 　こうした中で、これまでのように、行政による公平・画一的な公共サービスの提供だけでは、十分に対応することも困難となっており、こうした地域ごとの課題解決に向けて、きめ細やかに、またスピード感をもって対応していくためには、市民の皆様と行政が連携・協力してまちづくりを進めていくことが必要でありますし、また効果的で現実的な選択ではなかろうかと思っています。 　本市では、「個性豊かで　活力のある　自立した地域社会」を目指して、市民の参加と協働によるまちづくりを推進するための基本的な考え方を明らかにした、「山口市協働のまちづくり条例」を平成２１年４月に施行いたしますとともに、条例の理念を着実に進めるために、具体的な進め方を定めた「協働推進プラン」を同年に策定いたしたところでございます。 　具体的な方策といたしまして、平成２１年度には、地域づくり活動や地域課題の解決を支援するために、地域づくりの総合的な拠点施設として「地域交流センター」を設置

	いたしますとともに、翌年、平成２２年度からは、実践的な地域づくり活動のサポートを目的といたしまして、各地域センターに「地域担当職員」の配置し、併せて市税収入の約１パーセント相当分を地域の活動資金とする「地域づくり交付金制度」を創設し、地域のみなさんが自らの意思で判断し、決定することができる住民自治社会をベースとした地域づくりを支援しているところでございます。 一方、ＮＰＯや市民活動団体の自立的支援といたしまして、これまで「さぽらんて」を中心に、団体の立ち上げ支援・運営支援を行いますとともに、主に活動のスタートアップを支援することを目的といたしまして、「市民活動促進事業交付金」により財政的な支援を図っているところでございます。 次に、地域づくり交付金にかかる現況などについて、御説明をさせていただきます。 地域づくり交付金につきましては、市内２１地域の「地域づくり協議会」に対しまして、地域における課題を自ら解決する手段として交付したものでございます。 昨年度までの状況につきましては、皆様のお手元に資料として配布させていただいております。 【資料「平成２４年地域づくり交付金制度について」により説明】 本市としましても、地域づくり交付金制度につきましては、できるだけ地域が自ら地域課題を解決できるよう、制度の弾力的な運用に努めてきたところでございます。また、そうした状況に対しまして、地域担当職員をはじめとした地域交流センターが中心となって側面的支援に努めてきたところでございます。以上でございます。 ＜辻会長＞ 平成２２年度から地域づくり交付金制度が始まり、３年が経過いたしました。 今日の委員会の中では、平成２４年度の地域づくり交付金の各地域の使われ方について、感想やアドバイス、特に良い点、あるいはもっと工夫が必要な点などについてお一人ずつお話をいただけたらと思います。 ＜Ａ委員＞ 資料を見ていくつかの地域で今までと違った部分、ＰＤＳサイクルの動きが総括の中にも見えてきていると感じました。 住民アンケートなどを実施するなど、住民のニーズを拾って動き出していると感じました。 ＜Ｂ委員＞ 前年の評価で、各地域づくり協議会の中だけでの評価ではなくて、２１地域が集まって各地区の様子を見ながら、自分たちの評価を考えていくことがあっても良いのではないかということがあったのではないかと思いますが、今回の実績に関してはそのあたり

	予定されているのでしょうか。 ＜事務局＞ 地域づくり協議会同士の交流・話し合いの場をつくろうと、各地域づくり協議会の事務局長さんに参画していただいて進めています。 ９／８に開催する協働によるまちづくり講演会の後で、各地域づくり協議会の皆さんに集まって３００人規模でそれぞれの活動の情報交換など、交流会を開催する予定としています。 ＜Ｂ委員＞ 今年度は取り組みが始まるということでよろしくお願いします。 大切なお金なので、透明化というか、２１地域がどのように使っているかを見るということと、この交付金が地域におりてきているということを知らない住民も未だに結構おられるので、地域づくり協議会の運営に携わっている皆様が周知していく努力をしていただきたいと思います。 ＜Ｃ委員＞ 地域が持っている特性を活かしたまちづくりが目的と思いますが、地域の個性創出の取り組みの実績額が少ないと思います。どこでも必要なことは行政がやって、地域に本当に必要なことは地域づくり協議会がやるようなシステムをつくったらどうかと感じました。 資料のグラフは円グラフで割合しか出ていませんが、棒グラフで額も見えるように表示していただければ分かりやすいかなと思います。 それから、単年度決済で繰越が認められていませんが、使途がはっきりしていれば繰越も一つの手かなと思います。 ＜Ｄ委員＞ 初めての参加でどういったところをチェックすればいいのか見えにくい部分もありますが、地域の問題が見えやすい形で上がってくれば具体的な協議もしやすいのではないかと感じました。 ＜Ｅ委員＞ 地域づくり交付金が関係者以外に十分周知されていないと感じています。そういったところに費用をかけるなりして継続的に活動を進めていく取り組みがあったほうが良いのかなと思います。

	＜Ｆ委員＞ 資料の総括を重点的に見ました。いろいろな課題を把握し共通理解をする、計画作りをするなど、地域で話し合いをしているなと感じました。これを私は非常にいい方向だな、これから力をいれていくべきと感じております。 ＜Ｇ委員＞ 総括を読んだのですが、言葉の力って素晴らしいなと。「次世代につながる田園都市の創造」など言葉って大切だと感じました。 地域個性創出のイベントが多いところは一生懸命動いているのが良く分かります。小郡のシンボルづくりなどは、住民の方に分かりやすくて、一人ひとりがもっともっと地域を愛していけると思います。これから４年目に入っていきますがどんどん良くなっていくと思います。 ＜Ｈ委員＞ 伝統的に自分の地域を大切にしていこうという地域は地道にいろいろな活動をされていますが、まだ交付金のための活動もあり、もう少し整理されてくると本当の問題点が見えてくるのではとも感じます。 地域の人がまちづくり､協議会に関してどのくらい自分のこととして考えているのか､根元のほうまで浸透しているのかと考えるとちょっとどうなのか、動いているところとそうでないところが分かれているような感覚があります。 今いろいろなまちづくりの運営をされていますが、これがもう少し落ち着いたときに本当の方向性が見えてくるのではないかという気がします。 これがひとつのきっかけになって、地域づくりをもっとしていこうという流れになっていくことが大切なことなのかなと思います。 ＜Ｉ委員＞ 地域づくり交付金は地域づくり活動に基づいて行われており、地域づくり計画は概ね５ヵ年で計画されているので、毎年同じ活動が出てくるという状況があります。 暗中模索する中で税金を大事にしながら活用していっているという状況で、現在は次の５年はどうしたらいいのか、計画の立て方が気になっている現状です。 地域づくり協議会の会長はボランティアで、事務局長と事務局員は給料をもらっている。ボランティアの会長が有給の職員に命令をするのはバランスが悪いような気もします。 地域では、講演会の開催や、研修会、自治会の役員会など会長の役割や地域づくり活動が忙しくなってきています。地域づくり支援センターが出来ましたが、私としては困ったときに助けてくれるのが支援と思っていますが、こういうことをやってみないか等と提案されている状況です。こういう中で四苦八苦してやっているのが現状です。 しかしながら、少しずつ前進しているのは間違いないと感じています。

	＜Ｊ委員＞ 協働のまちづくり条例第３条に基本理念として「市民は主体的にまちづくりに参加するよう努めるものとする」とありますが、市民がそれを受け止めるようなスタンスがないと、地域づくり協議会がどれだけ広報をしても地域に浸透しません。行政が基本理念を地域づくりの関係者だけでなく、市民にしっかりと周知していく必要があると思います。 今、高齢化社会に向かっていて、地域に高齢者が増えてきています。本来は地域づくりはそういう視点でどういうふうに解決するかということにもっと注力しないといけないのですが、２１地域の実績では地域福祉の金額が少ないですね。これは地域の福祉は社会福祉協議会がやっていて、それに予算がついている。社会福祉協議会の事業を更に大きくしていくのか、しかしそこには費用が足らない、一方、新たな項目を地域づくり協議会で作っていくにはまだ至らない。福祉というものについては今後考えていかないといけないと感じています。 地域づくり交付金の実績については、人件費と法定外公共物の工事費は別枠にして、実際の地域づくり活動のみとしたほうが見えやすく、意見が言いやすいのではと思いました。 ＜Ｋ委員＞ 地域づくり協議会、地域づくり交付金の趣旨を理解されず、交付金を使いたいという人が地域にはまだおられます。そういうことには使えないと言っても、使いたいと言われて本当に苦労しています。 ＜Ｌ委員＞ 私の地域の状況ですが、交付金を使いきっておらず余りが出ています。これは何故かというと、部会がお金を使うのではなく、構成している団体が事業をやるのですが、すでにこれ以上事業ができるのかというほど多くの事業を抱えており、なかなか更なる事業が出てきません。 課題としては、交付金をどういうことをどうした形で立ち上げていくのかということと、部会を作ってその中から出てくるように形を改めていかなければならないのかなと感じています。 ＜Ｍ委員＞ 地域づくりはひとづくりとカーブミラーや溝蓋のようなものづくりの大きく２つととらえています。 特にひとづくりについては、高齢者等への福祉の企画は多く見られますが、少子化という中で独身の若者への支援が見られません。若者は忙しくて出会いが無いという状況がありますので、市全体として、２１地域の交付金のいくらかを本部にとっておいて、

	市全体で婚活の事業をしてみてはいかがでしょうか。 　それと、山口市の中で、地域づくり交付金と、他の課が持っている交付金が重複して使えるのかという問題が出てくるのではと感じています。山口市全体として、交付金のあり方をゆるやかにしていただきたいと思います。 ＜N委員＞ 　事業がマンネリ化している、新しいことに取り組まれているのが７～８地域であると思います。逆の面では、地域コミュニティでやるべきことが見えてきて定着したともいえますが、マンネリ化の向こうには衰退がありますので、新しいことにも試行錯誤してもらいたいと思います。 　面白いと思ったのは鋳銭司地域のデジタル化、アーカイブとして地域の資産を残す、嘉川地域の新しい地域の特産品をつくる、その地域でなければできないことを続けていくことがすごく大切なので、そういう模範地域を参考にされてはどうかと思います。 　各地域では広報をされていますが、紙媒体だけでいきとどくのか、紙で受け取っても見ない、若い人はインターネットに興味があるという現状もあると思います。 　広報がどの範囲まで広げているのかを資料で分かるようにしていただければ良かったと思います。 　地域の中では現状を維持するだけでも精一杯という現状がある中で、市民団体を活用していただければと思います。市民団体は専門性を持って動いているのですが、市民団体から地域を調べて出向いていくのは難しいので、地域のほうから市民団体に課題を出してお声をかけてもらえると良いと思います。 　地域づくり交付金は会長さんの実費弁償や事務局員の増員など、大分緩和されています。市民活動促進交付金についても、弁当代や人件費についても使えるように見直していただければと思います。 　それから、さぽらんてと地域づくり支援センターがどのように連携しているか説明をお願いします。 　また、地域を知らないという方が多かったので、この委員会で山口市をめぐるツアーをしてはいかがかと思います。 ＜O委員＞ 　私が注目したのは決算と配分の比率です。事業収入を得ながら取り組んでおられる地域もあれば、配分をいただいていながら使えていない地域もある。両極にあるなと。 　やはり事業収入を得ながらというのは、今後の地域づくりの一つの課題であろうなと思います。 ＜P委員＞ 　住民が自治会と地域づくり協議会の住み分けができていないのではと思います。自治会は残り、地域づくり協議会は変わっていくことも考えられるのでしょうが、そのあた

	りを早く住民に周知徹底していくべきだと思います。 　周知徹底の中の情報公開という点で気になったのですが、平川地域では情報公開が非常にされており、状況がつぶさに分かります。非常に感心しました。 　私の住んでいる地域ではホームページがありますが、ほとんど情報が載っていない。課題をどういうふうに見つけたのかというプロセスが分からない。 　協働推進プランにはＰＤＳサイクルの確立とありますが、地域ごとにバラつきが大きいと感じています。 　協働推進プランには行政の実行計画が掲載されていますが、真剣に見ないと分からないのですが、対象になる主体はどこかなど細かく計画されており、見ると非常にわかりやすい、その点はうまくいっていると思います。 ＜Ｑ委員＞ 　総括を見てみると、地域づくり計画に基づき進めているといった記述、あるいは地域づくり計画の策定においては住民の意見を吸い上げて策定していますという記述が増えてきているといったところを私としては重視しています。だんだん住民参加が進んでいるのかな、もちろんそもそも地域づくり協議会を認識されていない住民もおられますが、計画に基づく事業が主流になりつつあるということが、昨年、一昨年に比べましても、記述の上でも意識されているということが変化ではないかと思います。 　地域づくり交付金が公金である以上、その活動は社会課題・地域課題の解決でなければならないと断言できると思います。取り組んだ事業が、社会課題・地域課題の解決にどのように貢献したか、課題がどの程度解決されたかということが、次第に厳しく問われることになると思います。この点はまだ非常にゆるいですが、この点を評価する機能としてこの委員会があるということで、本当にそれをやるのであれば、２１地域の年度計画があって、それぞれがどういう目的で事業をやって、その結果こういう成果があがりましたというのが無いと私たちは評価が出来ないと思いますが、今の段階ではまだそこまでは厳しい、今は住民自治の実験をしていると認識しています。組織そのものが成長段階であり、地域づくり協議会の会長さん、関係者の方は一生懸命努力されておられるので、私たちはその取り組みが少しでも住民自治の拡大につながるような支援、助言をしていくのが役割ではないかなと改めて認識いたしております。 ＜辻会長＞ 　地域づくり交付金については、住民自治のプロセスの中でまだ出発の段階にあると思います。それぞれの地域の中で温度差はありますが、少しずつ良くなっていると思います。 　ただし、住民一人ひとりがこの制度が動いていることを知らないのでそのあたりの取り組みをしていかないといけないと思います。 　そして住民自治というのは行政から交付金をもらうということだけではなくて、自己資金を募金等という形でふくらませていかないと、行政からお金をとってくるという従

	来の視点から変わらないので、足りない分を自分たちが捻出していくといく意識が出てくると地域の自治が確立していくと思います。 　この３年目くらいの中で、少し変わってきている。よく災害に見舞われるところでは河川の改修等の環境づくりや、あるいは街なかで安心安全が気になっているところでは安心安全だと、わずかですが違った形の施策が動いている気がします。 　活動事例集を見てもそれぞれ温度差があって、まちづくりの思想が入り込んでいる地域から、まだそうでもない地域もあって、お互いが連携していいところを教えていく、教わっていくことが必要と思いました。 　私自身は５年間の目標という中で大分動いてきたとの評価をしています。 　ただ若い人とかにも浸透していく努力も必要と思います。 　とにかく忙しくなっているので、無駄を少なくして本当に地域が良くなる仕事内容に変えていくことが必要だと思います。そのためには業者を使ってということではなくて、多くの地域の方がボランティアとして参加していくこと、そして地域の中にＮＰＯがおられるならば彼らは専門家集団ですから、もっともっと連携していくことも必要だと思います。 ＜辻会長＞ 　本日のみなさんの御発言をもとに、事務局で整理をしていただき、それを副会長さんと私で協議した上で、本委員会の評価として取りまとめたいと思いますが、よろしいでしょうか。（異議なし） 　この推進委員会での評価については、どのような扱いになるのでしょうか。 　先ほどのＮ委員の質問とあわせてお願いします。 ＜事務局＞ 　本委員会で頂いた評価につきましては、今後の予算編成、交付金制度の運用において貴重な意見として参考とさせていただきます。 　さぽらんてと地域づくり支援センターの関係ですが、連携しようと協議をする場面を設けようと思っているところです。また、市民活動と地域の連携について他市の事例も参考にして研究をしているところです。 ＜辻会長＞ 　それでは、次の議題として、「その他」ということですが、レジュメには「山口市協働事業等選考委員会委員選出について」とありますが、こちらについて事務局より説明をお願いします。 ＜事務局＞ 　地域コミュニティと市民活動団体の特に公共的な活動に対して交付金を交付する「ガンバル地域コミュニティ支援交付金」及び「市民活動促進事業交付金」をこれまで実施

	していきており、今後も継続して実施することとしております。採択事業の選考につきましては、「山口市協働事業等選考委員会設置要綱」により、本委員会より委員を選出していただき、選考委員会を設置して行われることとしております。 つきましては、５名の委員の選出をお願いしたいと存じます。 ＜辻会長＞ ただいま事務局より依頼がありましたが、これまでの経緯も踏まえまして私より推薦させていただいてよろしいでしょうか。 （異議なし） それでは、委員長として坂本副会長 委員として白木さん、堅田さん、野村さん、宮成さん、を推薦いたします。 みなさん、いかがでしょうか。 （異議なし） それでは、選出された委員さん、よろしくお願いいたします。 ほかに事務局より何かありますか。 ＜事務局＞ 事務局より御案内をいたします。 市では市民の皆様へ協働によるまちづくりへの理解を深めていただくために講演会を開催いたします。 今年度は、昨年度「これからの地域づくりにもとめられるもの」をテーマとして講演をいただき、皆様に御好評をいただいた櫻井常矢先生を再びお招きし、「これからの地域づくりに求められるものパート２　ひとを活かす地域運営とは」をテーマとして開催いたします。 委員の皆様にもお時間がございましたらぜひ聴講をいただきたいと存じます。 その他事務連絡 ＜ｊ委員＞ 私が思いましたのは、お手元の資料は実際の活動のごく一部です。実際はすごく苦労しながらやっている。このことはなかなか伝わらないのかなと思いました。 ＜Ｂ委員＞ 阿東地域は現在大変なことになっています。災害が起きてから３日目にやっとボランティアセンターが立ち上がりました。県外の方がこられても、休憩する場所がない、泊まる場所がないと帰っていかれました。全てが後手後手に回っていて、ＮＰＯやＮＧＯの方をそういうところに入れてほしいと思います。２１地域の地域づくり協議会さんも、自主防災組織があると思いますが、阿東が今こういう状況で課題も山積みですので、是

	非足を運んでいただいて自分の地域の地域づくりに活かしていただきたいと思います。 ＜辻会長＞ 　阿東地域を２１地域の１つの仲間として、時間があればボランティア等の支援をしていただければと思います。 　本日の議題は、以上となっております。 　委員のみなさんから、他に何かございますか。 　それでは、以上で議題が終了しました。 　事務局にお返しします。 ＜事務局＞ 　それでは、以上を持ちまして、本日の会議を終了させていただきます。 みなさん、お疲れ様でした。　終了
会議資料	レジュメ 資料１　委員名簿 資料２　山口市協働のまちづくり条例 資料３　協働のまちづくり推進委員会規則 資料４　平成２４年度地域づくり交付金制度について 資料５　山口市協働によるまちづくり講演会チラシ 資料６　協働によるまちづくりパンフレット
問い合わせ先	地域振興部協働推進課活動支援担当 　TEL　０８３－９３４－２７６３